

平成30年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

日 時：平成31年3月26日（火） 午後2時～4時

場 所：青少年スポーツホール2階 会議室

出席者：○協議会委員 12名

中井委員、溝口委員、吉村委員、増田委員、廣崎委員、鬼頭委員、
山田委員、木全委員、中西委員、佐々木委員、皆見委員

中岡委員代理：生駒氏

○事務局 5名

まちづくり政策部

森木次長

まちづくり推進課

仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、坂口主幹兼地域整備係長、竹内

○コンサルタント 1名

特定非営利活動法人きんきうえぶ 寺田

会議概要（案件）

○金剛地区再生指針推進の取組について（平成30年度）

○中・長期的な取り組み検討について

○その他

会議記録

1. 開会

（事務局：仲野）

・開会挨拶等

2. 議事

（増田会長）

皆さん、こんにちは。これから第2回の推進協議会を進めて参りたいと思います。お手元の次第

にございますように、本日の議事は、(1) 金剛地区再生指針推進の取組について(平成30年度)というのと、(2) 中・長期的な取り組み検討についての2題でございます。順次進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

まず(1)ですけれども、これ3つのパートに分かれようかと思います。一つは3-1の資料を主に用いて、地区活性化に係る取り組み等の情報共有。これをかなり議論した後、URの医療福祉拠点化の推進について。これは口頭で少しご報告いただくということですね。その後、資料3-2を用いて、取り組み等に係る懸案事項についてというのが、議事の(1)でございますので、進めて参りたいと思います。

それでは、さっそくですけれども、資料2及び3-1を使って、地区活性化に係る取り組み等の情報共有について、準備、ご報告をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(1) 金剛地区再生指針推進の取組について(平成30年度)

(事務局:竹内)

- ・資料2説明。

(コンサルタント:寺田)

- ・資料3-1説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。この半期間ですね、こんな活動があったということですが、前から順次関わった人からもご意見聞きながら、少し意見交換をしてみたいと思います。

金剛バルにつきましては、主催者側として、中西さんの方からコメントいただきたいのと、出店者として溝口さん出されているみたいなので、少し何かコメントいただければと思いますけど、いかがでしょうか。何かございますか。特別皆に知っとかないといけない部分。

(中西委員)

金剛ショッピングモールの中西と申します。金剛バルは、第5回目で、年追うごとに参加人数も増えてまして、来場者数でいう3800人もアバウトな数字で、感情的にもっと多いんじゃないかなと思っています。

現実問題としては、バルを運営しているスタッフは実質5、6名に、例えばまちづくり会議とか、あるいはふらっとさんとかのお手伝いをいただいて、前日のお手伝いは10名前後で、当日も人が足りない、というのが現実ですね。後はお金がかかりますんで、お金の面は多少苦労しています。で、周りの方にご迷惑かけるということで心配しているのは、やっぱり駐車場。どうしても公園に来られる方が、一応駐車場はありませんとは伝えてはあるんですけども、車で来られる方が多くて、駐車場はとりあえずそのグラウンドを確保しているんですけど、満杯になる。会場がもう少し広ければいいかなというのは思っています。とりあえず主催者の方からはそれで。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。このお金みたいなやつは非常に大事やと思うんですよね。だからそれが継続しないとちゃんと資金的に回らないと、継続できないんやと思うんですよね。それはどんな感じですか。

(中西委員)

今は、一つは企業団体さんからの寄付。それと後は個人さんからの寄付。その個人さんの寄付については、このイベントを知っておられて、その時になったら定期的に寄付いただく方と、あと募金活動を会場の中でやっているんですね。それが1割5分～2割くらいかな。あと出店いただく方からの出店料。それと今約半分くらいは補助金という形になってるので、この補助金の部分が、逆に言えば減るようになればいいかなと。

(増田会長)

そうですね。あと企画の5名はいいかもしれないですけど、お手伝いされている人の人出不足というのは、かなり深刻ですか。

(中西委員)

そうですね。当日前日は、ちょっとスタッフはへとへとです。今皆の話している中では、例えば、自治会さんにもお手伝いしていただいている方もいらっしゃるので、出来れば若い人を巻き込まないと、楽しいイベントなので。

このあたりやったら大学とか高校生とか、ただ高校生はちょっと期末試験の頃になるので、ちょっと難しい。だから、大学生の方で、お祭りに参加してくれる人っていうのがいたら。

(増田会長)

はい、あと出店されている溝口さんいかがですか。何かございますか。

(溝口委員)

出店している立場で。

(増田会長)

いえいえ、どの立場でもいいですので。

(溝口委員)

もともこの場所で、UR自治会では独自にビアパーティーをやってたんですよね、夏に。10年くらい続けたんかな。この場所でやってたのを、銀座街のピロティでやるようになって、その後このバルというのが始まりまして、うちに出店してくれと。はっきり言って、出店しているだけだ。もちろん団地の中でも、金剛バルの案内をしていますから、一応1ブース借りて、生ビールと焼きそばを、そういう取り組みをしている。今、中西さんおっしゃったように、特にスタッフでお手伝いしているような状況ではないです。

(中西委員)

なんか基本的に自治会の方ってわかっている方が、個人的に来ていただいているわけですね。

(溝口委員)

ただ、一つ今回特に声が大きかったのは、イルミネーションにこれだけお金使うのは問題だと。これは市に対してね。これだけ長時間に渡って、電気代は知れてると思いますけどね。ただ、数百万のお金をつぎ込むというのは問題ではないかという意見は出ておりました。まあ水を差すような話ですけど。

もう一つは、信号止まりですしね。下には賑やかさが全然無いと。駅からモールまでという状況で、その下は一步外れたらもう暗闇だと。そういうような苦情もあることはあつたりする。どうしても一つのイベントで皆さんの意向を汲み取ったと理解しておりますけど。以上です。

(中西委員)

ごめんなさい。僕たちもイルミの反対意見があるのは重々承知していますけども。

(溝口委員)

ごめんなさい。反対意見ではなくて、それだけお金をつぎ込むという市に対しての一つの意見です。

(中西委員)

了解しておりますけど、一つね、我々が目にしたのは、駅からここまで明るくなる。で、一駅そしたら歩いてみよかって方がけっこう多かったのと、あと女性の方で夜帰られるのに、イルミがあるとすごい安心だという意見も多かったので、その辺は僕ら肯定的に捉えて、これは続けてほしいなと思います。

(増田会長)

なるほど。これはどうですか、市は募金活動とかいうのはされているんですか。イルミネーションに対して。

(事務局：坂口)

イルミネーションに対しては、市のお金で。

(増田会長)

だけになるんですか、その辺も募金活動なんかもありやと思うんですけどね。イルミネーションやっている間に、来年も継続するために募金してくださいみたいなやつも、市民への理解を深めるという意味でも一つそれはあるんやろうと思いますけどね。

もう一つは、金剛バルの実質5名でやられている企画会議に、若い子だれか入ってくれませんか

ね。2、3回ずっと。当日のお手伝いだけじゃなしに企画会議から入って自分らの一つ好きなイベントやってみみたいな、そんなんが出来ると思うんですけどね。それは、企画に入りませんかとはどこにも呼び掛けてないんですか。

(木全委員)

そうですね。富田林市さんと一緒にやっている事業ですので、その会議の中でコアメンバーとしては今いてるメンバーで残って下さいねというのが、役所さんからのご意向というか。で、実行委員を我々やっています、その下にお手伝いして下さる方を募集したいなという話は進んでいます、それまた募集は今かけている状態です。

(増田会長)

うちの大学なんかは、ボランティアセンターというのがあるんですよ。そこにコンタクトを取ってもらって、こんなイベントに対して、こんなお手伝いをするのを学生に公募かけてくれるんですよ、そのボランティアセンターは。やから、そんなんをやるのも一つかもしれません。今の若い子ですからお祭りやったらやりましょうかという子がいてるかもしれない。あるいは、この近辺で、同じように大谷大学なんかはそういうボランティアセンターお持ちなんかどうかと。その辺も一回コンタクトとってもらったらいいん違うかと思えますけどね。

(溝口委員)

そのボランティアセンターってのは費用がかかりますの。

(増田会長)

いや、基本的にはボランティアセンターはアルバイト賃取るようなことは一切していないと思います。

(溝口)

そうですね。色んなボランティアセンターあると思いますけど、例えばスポーツボランティアでスポボラっていうのがあるんです。あれも食事、交通費代は出すとか、イベントやる時に案内バンッと出すと、そこからスタッフをどんどん送ってくれるという。その時は、交通費と食事代は出すと。

(増田会長)

大学のボランティアセンターは、こっちから交通費も支給できませんよっていうので公募かけてもらう。あるいは、交通費だけ出せるんやったら、交通費出しますよって形で公募をかけてもらう。その公募のお手伝いをしてくれるという状況なんですけどね。そんなん一度調べてみてください。

他何かございますか、よろしいですか。はい、ありがとうございます。

その次が親子のふれあい祭り。これは商店街ですので、これも木全さんかな。どうですか、何か補足とか、聞いとかなあかんとか、皆に知っというてほしい話っていうのはどうですか。

(木全委員)

そうですね。補足っていうのはあまりないんですけども、去年ですね、2018年度でこれ2回目なんですけども、今回は、天気にも恵まれて、約1200人の来場者があって、広場は人で埋め尽くされてた感じではあるんです。今回成功した理由としては、ずっと後で検証したらやっぱり、お母さま方ですね。NPO法人のふらっとさんの協力であったりとか、そういったママ友さんですね。そういった方々がたくさん参加してくださったので、子どもさんの人数が多かったです。びっくりするくらいでした。で、写真小さくてわかりにくいんですけど、これパントマイムというか大道芸やってる方で、ボランティアで来てくれているんですね。皆さんこうやってボランティアで無償で色んなお手伝いしてくださっていたので、すごい活気が出ました。

あと、ちょっとこれからの課題ではあるんですけど、人数が増えてくるとどうしても、お手洗いと警備の問題が出てくるんですよ。事故は、今回幸い何にもなかったんですけど、ないとは言いきれませんので、そういったことも考えていかないといけないというのが次の課題かなと思っています。

こちら先ほど、金剛バルのお話であったように、市の方の助成金いただいてやっている事業なんです。ですので、色んな形変えていきたい部分あるんですけど、助成金の使い道っていうのは、かなり縛りがありますので。お金の問題っていうのは、やっぱりどこでもついて回るもので、実際商店街としても持ち出ししている部分は、だいぶありますので、それは宣伝広告費と思えば、まあまあ良いという部分もあるんですけど、やはり続けていくには人とお金というのは絶対不可欠なので、これからこの商店街のお手伝いをしてくださる方をもっともっと募っていきたいというのが、現状であります。

(増田委員)

これは、先ほどの5名の方の企画マンとは、また別の企画マンがいているんですか。

(木全委員)

全く別です。商店街でやっている。商店街の役員で企画運営している現状です。

(増田会長)

あとは、吉村さんは、ペットボトルの方をやっていただいたのは吉村さんですよ。

(吉村委員)

僕は設置を手伝っただけ。

(木全委員)

いやいや、めちゃめちゃ助かりました。

(吉村委員)

いや、行ったらペットを付けたらいいという状況やったんで。それを手伝ったらいいという状況で。これだけ準備してくれてはって、当日チラッとやるだけやなということで、僕は大変な思いしてないんですけど。まあたくさん来ていた一つの要因としては、ペットボトルの飾りをやってもらって幼稚園とか保育所の数が増えたんじゃないかと。そういう子どもの作品があると、必ず親子が、お孫さんの見に行くというのも含めて来られるんで、それがようさん来られた一つの原因ちゃうかなという風に思っています。

ポップコーンについて企画的には良かったなど。失敗はありませんので。フランクフルトはちょっと失敗して、台無しになって、ちょっと申し訳ないなと思ったりしたり。それがなかったんで、こういう手軽さとかあまり失敗がないものを出すっていうのも一つ大事なかなと思いましたね。

あと、大道芸の方来られていたんで、これはものすごく目立ってましたから、子どもらの喜びようも全然違うんちゃうかな。そういう点でも企画的に非常に良かったんちゃうかなと僕は思っています。

(増田会長)

これは、大道芸の人は、前に帽子でも置いてお金入れてくださいっていうのは、補助金もらっていると無理なんですか。

(木全委員)

これに関しましては、この個人の子は普段の仕事が副業が認められない仕事なので、無償で来てくれているんです。これはここだけの話ですけど、大道芸で使う風船とか、材料費だけはお支払いしているんです。

(増田会長)

なるほど。あとこのペットボトルツリーは誰が企画しているんですか。

(木全委員)

金剛バルと一緒にやっています。

(中西委員)

基本、バルが最初にこの公園にツリーをペットボトルで作って、近隣の保育園・幼稚園の子どもに作っていただいて、それを回収して、組み立ててっていうのをやってたんです。それを数が増えたというか、金剛バルの場合は一日で終わっちゃうんで、ほんだら見に来れないお母さん方もいるし、せっかく作ったのについていう意見があったんで、全部じゃないんですけども、小さいペットボトルについては、ふれあい祭りから長期的に飾っておこうということでお願いしています。

(増田会長)

たぶん私なんか色んなところでやっているのは、このペットボトルツリーとか、こういう若い子

の色々なデザイン企画をしたりとか、色々な取り組み方したりとか、ごっつい皆が取り組みやすい
というか、興味を持つやつやから、こんななんなんかもちょっとは若い子も巻き込む一つの大きな題
材やと思うんですけどね。毎年デザイン考えましょうかみたいな話だとか。

はい、ありがとうございます。はい、軽トラは後で集中して議論したいということらしいので、
その次は自主防災の方はどうですか。

(事務局：坂口)

寺池台小学校区の防災訓練の方なんですけれども、これまちづくり会議の友田さん、今日お休み
なんですけれども、中心に防災活動部会でリードしながらやった取組ということで、このチラシで
すね、地域の方々のゆるやかなつながりを築くということを目標に防災活動部会は取り組んでい
るんですけれども、寺池台小学校は、特に金剛地区4小学校ある中でも、防災に関するつながりが
薄いのではないかとということで、寺池台小学校区をフィールドとして何かしたいというのは、部会
の発足当時からあったんですけれども、校長先生なんかとも連携しながら、他の小学校区ではこの
写真にあるようなことが結構行われているんですけれども、寺小では今までなかったのでやってい
きたいということで、関係団体に声掛けして行われた取組になります。

お金の方なんですけれども、市の方で小学校区単位で連携した取組であれば10万円まで補助す
るという制度があったので、真ん中の青い枠の中にある団体に声掛けして連合的な組織を作って、
後はまちづくり会議が事務局として、友田さんを中心に補助金の申請をしてもらって、10万円を
市から出していただいてこれだけの取組をやったということです。

最初、まったく何もないところからこれだけのメニューをして、どうなるのかと思ったのですけ
れども、始まってしまえば、色々な団体から人をいっぱい出してもらえて、炊き出し訓練なんかも、
この小学校区では初めての取組で、豚汁とアルファ化米作ったんですけれども、何とか皆さんの協
力でうまくできました。

来年からも引き続き、地域に新たなゆるやかなつながりができたので、継続してやっていき
たいという声をいただいているところです。

もう一点、自主防災会の設立というのは、指針の中でも掲げる目標なんですけれども、地区内全
ての町会自治会における自主防災組織の設立ということで、策定以後、2年間でまちづくり会議に
参加していただいているメンバー中心に声掛けをしていただいて、寺池台三丁目と久野喜台二丁
目で、新たな組織が発足しました。

発足するにあたっては、先進的に取組をされている地区の方もこの会議に入っておられますので、
一緒に勉強会したり、個別に連絡とっていただいたりしたりしながら2つの組織ができて、活動継
続をされているといった状況です。地区内では、5団体から2団体が増えて、今現在7団体の防災
組織が活動しているといった状況です。

(増田会長)

これは、7団体連携した防災の日みたいなのはあるんですか。別々に今されているんですか。

(事務局：坂口)

小学校区単位では、例えば高辺台でしたら一丁目、二丁目、三丁目の自主防災組織が連携して防災訓練を実施したという話があります。

ちなみに、寺小につきましても、寺三の他、3つの組織があるんですけども、この訓練の構成団体として入っていただいて、各団体からも参加してもらったという、いわゆる連携の形というのは若干あるかと思います。

(増田会長)

広がっていったらいいですね。

(事務局：坂口)

そうですね。

久野喜台小学校では、まだこのような訓練が出来ていないかもしれませんので、ここでのノウハウをもってお手伝いができるかなと思っています。

(増田会長)

はい、何かお気づきの点ございますか、よろしいですか、ありがとうございます。

その次がニュースレターの発行ですね。これは、寺田さんかな。

(コンサルタント：寺田)

はい、ニュースレターの発行について先ほどご説明させてもらったんですけども、課題として感じている部分でいうと、一点はやはり編集会議を開いているんですけども、あまり参加者の方がいらっしゃらないというのが現状で、もう少し記事の内容も、皆から情報が集まってきて、これ載せたい、あれ載せたいという風に活発になればいいかなと思っているんですけども、今のところはこういう記事の枠があるから、どっかの情報ないですかってこちらから聞きに回っているというのが現状になっています。プラス、出来たニュースレターをどう配布するかですね。配布の体制が確立されていないので、せっかくこれを4000部、5000部刷っても、その後どう配布するか、どうやって見てもらうかっていう部分が確立されていないので、その分を皆さんでもうちょっと協力して、方法を考えたいというのが、今の現状です。

Facebookに関しても、一緒に更新されている方は1、2名しかいらっしゃらないので、出来れば皆さんで色々な情報をどんどん発信できればなど考えているんですけども、ただ上手く活用できていないのが現状です。ただやはり、一定の広報力があるので、これをもっとうまく使えば、地区内の情報は、もっと広く発信できるんじゃないかなという風に考えています。以上です。

(増田会長)

このSNSでまちづくり会議が関わっているイベント情報をどんどん流してもらえるとありがたいけどね。あと、広報を作るのってこの頃割と好きな若い人結構多いんやけど、なかなか手が挙がりませんか。編集するのに。

(コンサルタント：寺田)

そうですね。会議の際にも皆さんぜひっていう声かけはしているんですけども、なかなか手が挙がって来ないのが現状です。ただやはり、昨年度と比べると、中身に関しての情報提供だったり、記事の内容を一緒に書いてもらったりというのは、出来ているかなと思うんですけど、その出てきた情報をまとめていく段階では事務局中心になっているので、その部分をぜひまちづくり会議のメンバーの方と一緒にできればいいかなと思っています。それを一応目標というか、情報発信について、やってもらえる人の人材っていうのを考えて、講座の4回目にまちの広報マン養成講座を開催して、これは軽トラマルシェをテーマに記事を作っていく、情報発信していく、チラシを作っていくって形でワークショップをしたんですけども、こういう講座も来年度に向けて、もう一つ興味を持ってもらったりっていうのを、できるだけ情報発信に関わってくれる人も募集していきたいと思っています。

(増田会長)

結構家でパソコン使う人がいるので、結構こういう講座って言うのは面白いかもしれないですね。

(中井副会長)

面白いのは面白いですね。ただ、編集会議が夜でしょ。なかなかそういうのがあって、奥さん方は参加しづらい。かといって男性の方でも勤めている方は参加出来ないってなってどうしても少ないかなと思いますけどね。

(増田会長)

はい、あとはこの4000部どう配ったらいいんでしょうかね。例えば、銀座商店街とかそんなに配架してもらってるんですか。だれでも自由に取って行ってくださいみたいな。一つは協力していただいているお店屋さんにも全部配架して、置いてもらってお客さんが持って帰っていただけるみたいな話も一つやと思うんですけどね。

(木全委員)

置いてても持って帰らないので、うちはいらっしゃった方に渡しています。

(増田会長)

そうそうそうそう。多分そういうのが一つなんでしょうね。後はなかなか自治会に全部回してくださいというのは大変なんやね。

(事務局：坂口)

そうですね。一応年度変わりましたら、新会長さんへの挨拶を兼ねて、ポスティングしてくれませんかという声かけはやっているんですけど、もううちは回覧でええわって言うところが結構ほとんどなんです。

防災訓練のチラシこれ刷らせていただいたんですけど、小学校・中学校に児童数配布というのがあって、連携取れば一度に全校やったら300枚くらい撒けるなどというのは、この間気付いて、マルシェのチラシなんかも含めて、一回小学校なんかをお願いしに行こうかなっていうのはちょっと考えてますけども。

(増田会長)

なるほど。他に何かアイデアございません。どうですか。こんな撒き方したら有効ちゃうのって。特にないですか。これ後のあれですけど、ふらっとスペースなんかにもこのチラシ置いてもらっているんですか。そうですね多分ね。

はい、ありがとうございます。せっかく作っているんで、あまりあれやったら部数ちょっと減らしてみてもいいかもしれないですけどね。

(中井副会長)

町会に依頼されるのはですね、その町会の規模にもよるんですよ。うちのような規模ですと、班長さん1人10枚~20枚まで配れば、配れるんです。そういう意味では、班長さんの理解を得られれば、全戸配布やろうと思えば出来るんですけど。なかなか班長さんは、自分らの班を回覧で済むものを、また回るというのはなかなか大変やなあということで、もしやるとすれば回覧の時に、10枚やったら10枚つけてもらって、取ってもらおうということは、ここじゃないですけど別の物でやったことはあります。

(増田会長)

もう気にせずに、一律10枚やったら10枚でも回してもらおうと、そうでないと、ここの班は何枚や、ここの班は何枚やっていうと大変やから、もうちょっとルーズに極端なこと言えば5枚やったら5枚でほしい人が取ってくれみたいな。

(中井副会長)

どこの町会もたぶん回覧は回してはるんで、そこに適当に入れといて取ってねって言うとかのが一番手っ取り早いかなと。

(事務局：坂口)

余ったらどうするのってするのって昔からあるんですけど、最後の人、これどうしたらいいのって。

(中井副会長)

余ったら元に戻したらいいねん。

(事務局：坂口)

それでまた新年度、お願いしていきたいと思います。

(増田会長)

そうですね。わかりました。ありがとうございます。

後その次は、Kotona (ことな) の活用はいかがですか。何か、これは廣崎さんかな。

(廣崎委員)

Kotona の方で ENGAWA (えんがわ) という園庭開放をしています。園庭開放っていうと保育園とかでよくやっていると思うんですけども、イメージは親子っていうのが強くて、でも私たちがやっている園庭開放っていうのは、地域の方どなたでも来てくださいっという活動をさせてもらっています。で、うちの法人の月1回発行しているふらっとニュースっていうのがあるんですけども、そちらの方に2月号と3月号に挟み込んで、配布っていう風なことをしています。で、参加の状況としては、大体2組以上の方は来られていて、多い時やったら5、6組来られたりしています。時々、高齢者の方とかも地域の方も遊びに来てくれている状況です。で、4月20日に金剛コミュニティの取材が入っているので、割と金剛コミュニティに載ると広報力があるというか、色んな地域の方が来られることが多いので、それでENGAWAの参加率が上がったかなと思っています。

で、日時の方なんですけれども、毎週土曜日の9時半から11時になっているんですけど、これを4月から11時半まで延長することになっています。園の行事によっては開催していないこともあるんですけども、基本的に土曜日は9時半から11時半まで開催しています。

もちより晩ご飯の方ですけど、こちらの方は変わらず大体10組前後の方が来られていて、来られるメンバーもこの間あったんですけど、中学生、大学生の参加っていうことがありました。大体初参加の人がふらりと1人、2人くらい来ていて、じわじわと広がっている感じです。以上です。

(増田会長)

何か皆さん方に訴えとかなあかんこととか、聞いとかなあかんことございますか。いかがですか。特にないですか。

はい、使われている方として佐々木さんが結構出入りされているというので、できましたら。

(佐々木委員)

けあばる金剛、地域包括の佐々木です。ENGAWAはごめんなさい、僕はちょっと参加できていないんですけど、ただ私どもは高齢者の相談窓口になっていまして、ENGAWAに寄って、うちに寄ってっていうような形で、地域の方が散歩がてら通ってくるのに、ここに顔覗かせよう、ここに顔覗かせようっていうような形での、そういった方もおられるので、居場所としてはすごく良い状態になっているのかなという風には感じています。

で、もちより晩ご飯も、僕も行けたり行けなかったりしているんですけど、その中でもやっぱり行けるときには、それこそ新しい方がおられて、食べ物も買ってきたもの、それから作ってきたもの、やっぱり作ってきていただいたものは美味しいなと感じているんですけども、それこそ一人暮らしの方とかが来られてお母さんの味みたいな形で、この前もおでんいただいたんですけど、美味しかったりとか、そういう風にやっぱりすごく色々な年代のコミュニティを繋がりという部分では、

参加していて、すごく良いなという風には感じています。以上です。

(増田会長)

軽トラマルシェからの流れってというのは結構あるんですか。特にそれはないんですか。

(廣崎委員)

どちらかといえば、軽トラマルシェの開催時間が短くなったので、冬の期間。そうすると、もちより晩ご飯も、当然早くしようということで5時からにしたんですけども、やっぱり人がいっぱい来るのは6時なんですね。お腹が空いている私たちは5時半から食べ始めると6時に来た人は、あれ、何かちょっと少ないなど。そんなことになっていますが、なので6時くらいの方がご飯を食べにくるっていう気がするかなって感じです。

(増田会長)

これは、トークは自由トークですか。誰かが話題提供みたいなことをされるんですか。

(廣崎委員)

話題提供することもありますけれど、前回のことで言えば、片側グループはまちのことを語り合いながら、片側グループはアイドルの話で盛り上がっていました。

(増田会長)

なるほど。何かお気づきの点ございますか、いかがですか、よろしいですか。広がっていいいかもしれないですね。ありがとうございます。

(事務局：坂口)

よろしいですか。話戻るんですけど、ふらっとニュースってどうやって撒いているんですか。

(廣崎委員)

ふらっとニュースは、公立の幼稚園全部に一応お渡ししているのと、私立の幼稚園なんかも置いとくだけの園もあれば、園児全員に配付しますよっておっしゃってくださる園もあるので、そこによって部数は違います。後は、お店とかに置かせてもらったり、ロゼのところにも置かせてもらったり、公民館とかそういったところに置かせてもらってます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。その次は、7番目ですね。そば打ち体験、あるいはカフェ。ロペの話は後で固まってやりましょうということですので、どんどの話と。この辺少し何か補足ありませんかね。中井さんなり。

(中井副会長)

後でって話なんですけど、カフェというのは色々なところでされていて、例えば私たちの寺池ではモーニングカフェやってますし、公園清掃の後にパラソルカフェやらせてもらっています。高辺台にも確かありますし、その一環としてロペのカフェ&ランチ、一か月に一回ですかね。

そんな形で、ロペ自体が昔は皆さん、朝モーニング行ってはったらしいんですけど、やってはったお母さんが亡くなられて、あと旦那さんが地域にお貸ししますよという形で、借りていてやっているという状況です。

(増田会長)

溝口さん、どんどとかいうのはどうですか。

(溝口委員)

金剛団地自治会としては、どんど。どんどは30年ほど前から始めたんですね。これは一つは自治会の居住者の方が正月のお飾りを神社に持って行くのも大変ですし、昔はあちらこちらでどんどという行事があったんですが、だんだん少なくなってきた、生ごみで捨てるのはつらいと、何かいい方法はないかということで始めたんです。当初は当時の市長の家に竹がすごくあって、むしろ伐採してほしいということもあったので、その竹を30本くらい切り出して、竹でやぐら組んで中に木材を入れて、非常に盛大などんど火になったんです。各団地の方が、あるいは団地以外の方も、お飾りや年賀状とかをくべに来られた。ところが余りにも炎がすごかって、竹の葉が飛び散るんですね。団地だけではなくて近くのマンションからも苦情が来て、今度は竹の葉を落として竹組をした。ところがどこでもそうですけれども、役員も高齢化でね、竹を切り出すのが大変なんです。毎回毎回30本近くの竹を切り出していくのに、一カ所ではだめなんで、あちこちの竹を間伐するというので、その作業が大変ということと、あわせて市の条例の方、ダイオキシンの問題があいまって、一度中止したんです。2年間中止したんですが、やはり声が大きいんです、復活してくれと。

ということで、ちょっと規模を縮小して、木材だけを燃やす約1時間くらいのどんどになって、それでもお飾り等をゴミで捨てるのではなく、そこで処理できるという場所があるということで、そういう場所を提供しているということで、私たちも続けているんですが、当初はお酒も出していたんです。お酒とぜんざい、お神酒をね。やはりお酒を出すというのはそういう場ではまずいということで、今はおぜんざいだけ楽しんでいただいているということです。

(増田会長)

あと、鬼頭さんから、この移動販売はうまいこといってるんですか。いずみ生協と連携した。

(溝口委員)

移動販売は3年目になります。ずっと続いておりますけれど、関西スーパー、モールまで遠い地域で始めたんですね。でも、関西スーパーまで行く人も10分もかからないんですね、遠いといっても。それでもその地域の人たちに近場で買い物できることはないかということで、生協とタイアップしてできるだけ関西スーパーやモールの近くでやらない、影響を与えない地域でということで始めたんです。ところが、案外利用者少ないんです。今5カ所でやっているんですが、多いとこ

ろで十数名ですね。生協の方の売り上げの報告によると、一回で2万5千円とか3万円とか、そういう報告が来ておりますけれども、せっかく立ち上げたものが、生協のほうから続けるのが大変だということになったらどうしようかなと、そこで困っているところなんです、何とか固定客はいるんです。5人から15人くらいのお客がいますので、その地域の利用しておられる方からすれば便利ということですので、何とか維持して、もう少し枠を広げられたらなという風に考えています。

(増田会長)

分かりました。鬼頭さん、後で医療のところと一緒にご発言いただけたらと思います。

最後ですけど、まちづくりサポーター育成講座、吉村さんよく出られているみたいですけど、どんな感じですか。

(吉村委員)

公園のそこだけなんですけど、僕公園部会なので、それとのかかわりでどういうことができるかなということで、市民的にできるのは公園の掃除だとか、特に公園は入れない状況だから、もっと入れるようにできないかという話があったので、こういう里山づくりの方が来られるということなので行きました。

中身を見て、これが形になれば、地域の年齢にかかわらずいろんな方が参加して、公園を自分達で維持というか、楽しめるような状況にできるかなと思いましたが、かなり専門的にやっておられる方で、安全のこととか採ってきたつるをこういう風に使ったらいいとか聞いたんですけど、かなり専門的な知識があるなあと。僕が今思っているのは、里山作りのことは非常に大事な活動の方向じゃないかと思いつつ、かなり専門的な人に入ってもらわないと、これは素人だけではできないなと思ってまして、まちづくりでこれをもしつるすれば、そういうプロ的な方、講師的な方を呼んだ上で、人を集めるという専門的な部会じゃないですけども、担当者的な人がいないと上手いこと行かないなと思いつつ、そうなるまちづくりとしても色々な活動についての担当者を決めて、これはあなた中心になって頑張ってくださいねと、そういうものをつくっていかんかあかんかと思いつつ、今、そういう感じの状況です。

防災なんか、寺池台の防災なんか見てましたら、友田さんなんか中心になってやっていただいている。やはり中心になる人がある意味シャカリキになってやらないと続けられないのかなと、そういうことが分かってきたという段階で、じゃお前がやれやと言われたら、それはまたちょっと別と思いつつ、もんもんとしています。今、そういう感じの状況です。

(増田会長)

多分、4回で一回ずつやと、どちらかというと入門、紹介編でしょ。多分その中から一番受講生の多かったようなやつを、出来たらそれだけで4回やってしまうとか、そういうのがあるのかもしれないですね。入門編とあとは要するにアプライドというか、バージョンアップ型で、その内の一番人気のあったやつは、別途3回続けてやりましょうとか、そんなのがあるのかもしれないですね。

(中井副会長)

私も4回のうち3回くらい出たんですけども、今の先生おっしゃったように、とっかかりみたいなもので、今後どうしていくねん、今回テーマが4つともバラバラだったので、それぞれ入門編みたいなもので、入門編聞いたけど、次一般編どないして持っていくのとかね、その辺が次の発展形として、養成講座をもし続けはるんやったら、今おっしゃったようにテーマ分けてやらないと難しいのかなと思ったのと、公園の場合はフィールドワークで伐採して本当は里山作り自分たちでできるようにと思ったんですけども、そこまでいかなかったの。

(増田会長)

やっぱり少なくとも一つの講座で最低3回以上やらないと、広報なんかも中々自分で、とりあえず興味は沸きましたと、けれどもどうやったら出来るんですか、みたいなやつは、全部が全部そうやと思うのと、そのあたりが入門編と応用編みたいな形で考えた方がいいかもしれません。あるいは入門編と実践編みたいな形で。

ありがとうございます。次に進めさせていただきたいと思います。

先ほど言いましたようにURさんの医療福祉拠点化の推進というのと、先ほどの移動販売、少し苦戦しているような話も含めて、一緒にコメントいただければ。

(鬼頭委員)

はい、URの鬼頭です。まず医療福祉拠点化の取組についてなんですけれども、UR全体としては、名称というか考え方で取組を打ち出してから、ようやく5年経ったんですが、平成26年度からやっていますのでようやく5年ということで、金剛団地につきましては、その中でも割と初期の取組開始ということで、平成27年から開始しております。

西日本圏域で行きますと、5年たってようやく37団地で取組に着手出来た状況です。その中で何をやっているかといいますと、一番目に付くのは団地の管理事務所に支援アドバイザーという人を張り付けているということで、これは拠点化の取組と言ってる団地の中で配置しているんですけども、これも数が追い付いていない状況で、先ほど37団地と申しましたけれども、人が張り付けているのは、まだ11名という状況で、まだまだこれからやっていかなければならない。

この方は何をやっているかという、ご高齢者の方を中心としたご相談窓口ということで、一つ業務をご案内させていただきますと、安心コールと呼んでいるんですけども、あらかじめ希望された方に、週1回ゆるやかな安否確認ということで、お変わりありませんかというようなお電話するというような仕事をしています。

今登録されている方でいいますと金剛団地で34名、これが多いのか少ないのかといいますと、金剛団地5000戸ある中で34名というのがどうなんだというところはあるんですけども、出来るだけ登録していただきたいなという思いを持ちながら、申しましたように1人の者が週1回お電話ということなので、増えていくのはいいのですけれども、あまり増えすぎるとですれちよっと対応できないところがあるのですね、人によっては安否確認だけではなくて、ちょっと他の人とお話したいという思いの中で登録される方もいるんですけども、34名の方に電話しなくてはならないという事情もあるわけですから、お元気なことが確認出来たら、また改めて何かあればお

越してくださいということのご案内になってしまうので、このあたりが課題なのかなという風に思っています。

その他につきましては、拠点化のなかで目に見える取組としては、今年度でいいますと秋に集会所にやっとエレベーターが完成しまして、数あるURのほうも団地が多くありますけれども、集会所にエレベーターがついている団地というのはほとんどないというぐらいの状況でございます。

その他についてはですね、今年度の取組としましては、これもご高齢者向けの住宅になるんですけれども、健康サポート住宅ということで平成28年度から継続して供給しておりまして、今年度で39戸まで来たということで、お陰様で今39戸すべてご入居いただいております、空きがないという状況でございます。これにつきましては、次年度以降も引き続きやっていきたいと思っております。

続きまして移動販売なんですけど、私この今やられている生協さんの状況、あまり詳しく把握できておらないですけれども、金剛だけではなくて他の団地でも移動販売をやっている団地はいくつもございます。また、まだやっていない団地でもお住まいの方から移動販売をぜひ欲しいというようなお声もよく聞きます。

そういう状況なんですけれども、さきほど溝口さんおっしゃっていたように、だいたいこの団地も残念ながらそういったお声を受けて入れるんですけれども、利用される方がなかなかあがってこないというのが実態です。お聞きすると、移動販売はほぼそうなんですけれども、週一日、多くても2回、時間も決まっているということで、何か近くに来てくれればいいなという思いは皆さんお持ちなんですけれども、いざいざそういったところで来ましたとなると、欲しい日と来る日があわないだったりとか、そういった事情等でなかなかあがってこなくて、これまた別の団地なんですけれども、お住まいの方のご要望で入れたものの、利用者がなかなかあがらずにですね、残念ながら半年位でなくなってしまった団地もあるので、やっぱりどこも固定の方というのは何人かいらっしゃるんですけれども、いかにご新規の方を増やしていけるのかということが金剛だけではなく、この移動販売というものの課題なのかと認識しております。

(増田会長)

ありがとうございます。

それでは、ちょっと前に進みますので、次に資料3を使って取組にかかる懸案事項というのが何点かあるということで進めてまいりたいと思います。

(2) 中・長期的な取り組み検討について

(事務局：坂口) (事務局：竹内) (コンサルタント：寺田)

・資料3-2説明

(増田会長)

はい、ありがとうございます。今後の課題ということで5点ほど挙げていただいておりますけれども、いかがでしょうか。

まず、ウォーキングマップの使い方について何かありますか。これは今まちづくり会議の中で、歩こう会のようなことをやりましょうかという方はいらっしゃらないのですか。

(事務局：竹内)

29年度にまちづくり会議ができたときから、各公園の利活用を促すような活動として、このような緑のネットワークづくりということが挙がっていたんですけど、公園活用部会の中でも地図の作成までは進んだけど、そこからの議論が進んでいないというのが現状です。

(中井副会長)

別の団体で、まち歩きというのが主催しているんですけど、そういうのを見ると、こういうマップをつくってやっていくためには、これを企画するという人がいましてね。今やっているまち歩きも4、5回企画会議を開いてからでないとも募集できないという風な感じで。イベントをやるのは非常にいいんですけど、それを公園部会のメンバーでできるかどうかイベントをやるかやらないかの分かれ道かなど。今の公園部会のメンバーで手を挙げて出来る人がおれば、使えるのかなと思いますけど。

(増田会長)

そうですね。やっぱり誰か企画してくれる人、呼びかける人が出てこない、ということと、もう一つは泉北の近隣センターでは健康運動の先生と連携して空き部屋を利用して健康運動をして、そのあと町の散歩に出かけるみたいな。今日は何カロリー消費ですよ、とかそんなことをやっているところもありますけどね。

このマップだけがあっても、あまり意味がなくて、やっぱり企画をしてどんな展開をするのかというのを提案していただける人を発掘することが一つでしょうね。

あとはこのロペについてはどうですか。これも極端なことを言えば、このロペで持ち寄りカフェやら居場所づくりとか広く富田林市全域で公募するというような話はダメなんですか。金剛の中でないとダメなんですか。

(事務局：坂口)

今はまずは周辺住民に知ってもらいたいし、使ってもらいたい。あまり市域全体からの人が出入りするというよりは周辺の人たちの居場所に、というのがオーナーさんやコーディネートのさんの想いとしてはあるようです。

(増田会長)

大学なんかでよくやっているのは、商店街の中の空き店舗を使って、そこでゼミしてもらおうとか、そういうので使ってみませんか。あるいは、栄養療法学とかそういう講座等をもっている大学で、ここで老人向けの給食、配食をやってみませんかとか。

(事務局：坂口)

それは可能性があると思います。ランチなんかで孤食の人たちが集まってくる場っていう意見を聞いたこともありますし、勉強会でもしたらという声もあるんですけど。

(増田会長)

極端なことをいうと、経済的にまわるということを考えると、1食いくらでどうやって運営できるのかみたいな、ぼろ儲けできなくてもいいんで継続できるためのビジネスモデルのようなものを展開できるようなことを、公共の施設だとなかなか有料化とかできないでしょ。ここだと比較的そういう面では自由にできる。あるいは今後喫茶店をやりたい人のスタートアップみたいな形の使い方をしませんかとかね。

(事務局：坂口)

ちなみに資料3-1の11ページにある、そばを食す会のイベントを一度ここでやってみようということで2月にやって。まちづくり会議のメンバーの中にそば打ちが得意な人がいて、教えられるよということで簡単な体験会とできたてのそばを皆で食べましょうということで、500円でそば1杯とコーヒーとお菓子をつけてやったんですけど、20何人か結構な数の方に来ていただけて、最終的に千円の黒字が出たと。もちろん人件費は出てないんですけど。会場費や原材料費、その他諸々を払って、これならすぐできるねということで。今後するときに誰かが個人的に負担するというようなことはやめてね、という願いはしたんですけど。なんとかできたということで、体験会と居場所づくりができたという一つのいい例かなと思うんですけど。

(増田会長)

やっぱりある意味スタートアップのような商売をしようというのは、人をどう巻き込むかで、ちゃんと儲からないといけないんですよ。儲かったらあかんという仕組みや、ボランティア活動なんですよ、というようなことをやっていると限界があって。若い子なんかでもここでスタートアップ資金を稼ぐぐらい頑張りましょうかみたいな人なんかを引っ張ってきても、あまりお金を絡まさないみたいな話でやると、かえって活性化しないんだろうと思うんですけどね。

昨日もたまたま私の教え子で、そういう飲食店をスタートアップするコンサルタントを起ち上げた教え子がいて、そういうコンサルタント費用をとって支援するというような。実際空き店舗と喫茶店をやりたいということはどうマッチングして、どう商売をスタートさせるか。あと技術的にも少し経済的にも最初は支援しますよ、というような支援団体があったりとかね。あまり全て無料だとか、全て儲けたらあかんというような仕組みはかえって足枷が大きすぎるんじゃないかなと思うんですけどね。

(事務局：坂口)

もともと喫茶店なんで、儲けてもらってもいい場所なんで、チャレンジショップ的な場として活用できるか、一度コーディネーターさんと相談してみて。ワンデイオーナーカフェとかもという意見もあったんで。

(増田会長)

だからそういうこと少し思いますけどね。

(溝口委員)

先生がおっしゃったとおりでね、うちが暮らし応援団というのを起ち上げてるんですよ、これはお年寄りが多くなってきたんで、例えば電気の取り換えや家具の移動とか、そういうものを300円でお手

伝いますよと。当初はボランティアだからタダでどうかと意見もあったんですけど、タダだとかえって頼みづらいということで、自治会費の300円を最低限にするということに決めたら非常に多いんですよ、依頼が。ところが、広がりすぎると例えば3階の人が粗大ごみを箆箆を出してくれだとか、こういう依頼も来るようになって、それを無下に断るわけにもいかないけど、我々ができる範囲のことはお手伝いするよという形で、300円でお手伝い。ただし、物によっては粗大ごみとか大きなものを2人で行かなきゃいけないこととかもありますし、上限を1,000円という風に決めてやってるんですが、一切無料ということになると逆に頼みづらいという部分も出てきてますんで、そういう設定をしてやっていっています。

(増田会長)

そうですね。そういう感覚が大事で、それの方が取り組みやすいとか。これはたぶん全体に共通できる話だと思いますけどね。

あとマルシェに関してはいかがでしょう。マルシェをされている農家の方がこれをきっかけに自分の農場にお客さんを連れていくような日をつくっているとか、そういうのはないんですか。あるいは、ここで野菜ソムリエみたいな話と一緒に、野菜レシピをイベントとしてやっているとか、そういったものはないんですか。

(事務局：坂口)

農家に来てくださいというのは声をかけていただいていますけど、まだ行けてないんです。

(増田会長)

そういうのが農家の人たちの契約栽培みたいなものに繋がって行って、農家の人にとっては軽トラマルシェがアンテナショップ的で、自分のところの農作物を直接ネットで売れるとか、契約栽培的に売れるとか、そんなんもありだと思ってるんですけどね。

(中西委員)

最初のスタートの部分に関して、基本的に農家の方っていうのは、まず金剛地区のことをご存知ない。逆に我々も向こうを知らない状態で始まって。その農家さんたちの想いとしては、自分たちのつくったものを地場で直接売りたいというのがあるんですね。売れば色んなものをつくりたい。だからそれが難しいところで、こちらとしては色んなものがほしいけど、農家さんは今つくっているものの反応がよければ種類を増やしていく。その辺の両方の葛藤というのがあって。例えば時間帯にしても初めに話していたのは朝一だったんですけど、現実問題農家さんは朝が忙しい。とりあえず自分のところの仕事、収穫や出荷が終わってからこちらへ来るということで今昼からになっているんです。ところが金剛地区は高齢者が多いので、午前中の方がいいですよ。だからそこにミスマッチがある。これをどうやったら解決できるのかということを考えていかないといけないんです。

(増田会長)

たぶん多品種少量生産型でないとマルシェはもたないんですよ。白菜ばかりがどかっとなるとかではなくて。そうすると農家の人も、規模を縮小するときに3軒農家をまわって、順番に3軒農家の野

菜を1人が持ってきてもらおうと。それを順番でまわしてもらって、来る人が順次代わっていてもいいのかなど。出す方も地域ぐるみでここへ来てくれるようなことをやるとかね。

(中西委員)

ただ、今現実的に11農家なんです。作っているものがかなり近い。

(増田会長)

そうでしょう。11の人に隣近所から余ったものをもうちょっと多品种的に持ってきてほしいと頼むか。あるいは11人のうち、近所だったらそのうち4軒が3軒ずつの農作物を集めてここに持ってきてくれるとか。そういう共同出荷的な仕組みをやってもらおうと。

もう一つは直接生産現場に行くというのはものすごく大きな魅力で。軽トラマルシェで3ヶ月に1回でも農場見学会みたいなことをやってもらおうとかね。

もう一つはレシピ付きですわ。色んな野菜のレシピ付きみたいなイベントをすると全く違って。たまたま私は1ヶ月前は無印良品店で学生のサンドイッチレシピを1日100食売ったんですけどね。一昨日は難波で、学生のサンドイッチレシピ、やはり100食売るイベントをしてたんですけどね。サンドイッチをランチとして出すとか、サンドイッチの一部を試食として出すというのと同時に、横で府大マルシェといってレタスを販売していたんですけどね。メニュー付き販売みたいなものをね。この頃色んなテレビ番組でも最後はやっぱり食べるでしょ。農家の奥さんやプロの料理人が作ったりとか。食べるという行為と連動させるようなことはすごく大事でね。

(木全委員)

先ほどおっしゃっていた防災訓練と組み合わせたらいいと思うんですけど。炊き出しが載ってましたよね。これほんまに大規模な災害が起こった場合に流通も止まってしまう訳だから、地元地域のものしか食すことができない訳ですから、防災訓練を軽トラマルシェと一緒に絡めて何ヶ月かに1回やるのかして、そこで富田林の野菜を使って炊き出しをしたりするのもありかと思えますね。

(増田会長)

あとは子育て層の中で絵本の読み聞かせみたいなことを。必ず朝市とかマルシェとかやっているところでそういうイベントブースと販売ブースとあって、イベントブースなんかでも絵本の読み聞かせ会をやっているとか、ちょっとしたクラフト教室をやっているとか、そういうものと一体的にやるとか。移動販売もそうですけど、マルシェなんかもある一定儲からないとどんどん撤退していくから、皆がイベントを絡ませることを考えて、お客さんを増やしていくようなことを。それができるのが、たぶんまちづくり会議で、今みたいに防災訓練と一緒にやったらどうですかとか。一つの魅力としては、一度バスでも借りて現場を見に行くようなことをやってもらおうと魅力的だと思うんですが。今若い奥様方も生産現場を見たいというのが結構あるんで。

(溝口委員)

昔は市のバスで焼却場とかサバーファームとかを巡回してというのがあったと思うけど、今そういう制度があるのか。それがあれば今おっしゃられたような企画でマルシェとセットしてまわっていくと

か観光をかねて。今はそういうバスは出ないのかね。以前はあって利用したことがあるんですけどね。

(増田会長)

ちょっとそういったマイクロバスでニュータウンと農村部を行き来してみるとかね。

(事務局：坂口)

社会見学的な感じで。

(増田会長)

よろしいでしょうか。あと、まちづくり会議はどうなんでしょう。大体こういうシナリオでいいんでしょうかと。やっぱり企画をやってくれる人、行動の起点としてまちづくり会議を育てていくねんというのは一つなんじゃないかな。何かやりたいけど自分1人ではできないからまちづくり会議に行ったら、やりたい人が2、3人集まってくれるとか、ちょっとしたサポートがあるとか。

(事務局：坂口)

そういう場にしていきたいなと思っています。そうすると全体会としての一目的というものがぼやけてしまうんですけども。ここに来たらつながりができますよ、というような。

(増田会長)

全体会の目的は、議論することではなくて、あることが発生していくような、何らかの行動起点となりますよというのが非常に大きな主旨だと思うんですけどね。あまりに高い理念の共有だとかそんな話よりも、むしろここに来たら、まちにかかわっていける行動起点になりますよみたいな話が非常に重要で、ただ会議をやっていますよというだけでは、なかなか皆おもしろくないから来なくなって。

まちづくり会議をやっている中で、若い人とか新人とかどんなことを自分としてはやってみたいねんというような発表会の場はあるんですか。

(コンサルタント：寺田)

最近はできてないですね。基本的にはこういうことをやりましたという報告と地区内でこういうことがあるので参加してくださいねという情報共有だけで留まってしまっていますね。それで時間いっぱいになってしまって。

(増田会長)

だから何回かに1回は、こんなことをやってみたいという会議にしましょうみたいな、この指とまれ的なことはできないか。先ほどの地図みたいに、これで歩こう会を企画してみようという人はいませんかとか。

2、3日前に安満遺跡公園の開園を高槻市でしたんですけど、25年くらいから公園づくりをしてきてやっと開園したんですけど、行動を始めたときから、こういった公園になってほしいというワークショップは絶対だめだと。この公園でどんな活動をしてみたいねんというのをやってきてもらって今8グループ出来てるんです。木登りの面倒をみるグループだとか、ドッグランをするグループだとか、赤

米を作るグループとか、火遊びをするようなプレイパークをするグループとか、そのうちの 하나가広報グループとか、もう一つは公園ウェディングみたいなのを仕掛けられませんかといったグループとか。公園に対する要求じゃなしに、その場所でこんなことをやってみたいということをやっとワークショップでやってきて、どんどんグループを増やしていった。その内の一つに防災グループもあるんです。お父さんと子どもの1泊2日のサバイバルキャンプをしかけてみたりとか。

だから、まちづくり会議の一つは、情報交換会と同時に、何か次の行動を生み出すような会を持つような。そのときには全部ヒト・モノ・カネですよ、それに対してどうやって皆で調達してくるのかということも議論できれば。やる人とそれをできる資金と資機材ですよ。ヒト・モノ・カネの話を生々しくできるような会議にしたらいいなだと思いますけどね。行政がある一定補助金をやっているとダイレクトに特にカネの話をあまりしないんですよ。本当は継続していくためにはカネの話は非常に重要な要素だから、そこは避けて通らず、きっちり話をしたらいいなと思うんですけどね。ついつい行政がやると、そのあたりを避けてしまうので何となく定着しないというか。

皆さんいかがでしょうかね。そんなんでよろしいでしょうかね。ちょっと時間が大幅に過ぎていますので、これぐらいにさせていただいて、後は要するに中長期的な取り組みということで2、3点の報告になるかと思しますので、一つは公園の民活利用のサウンディング調査をされたというのと、UR賃貸住宅のストック活用・再生ビジョンの概要と。これらの報告を残りの時間で簡潔にお願いしたいと思います。

(事務局：坂口)

・資料4説明

(増田会長)

はい、ありがとうございました。何かご質問ありますか。

(溝口委員)

これについては住民参加というか住民の意見というのを絶対入れてもらわないと困るんです。

(事務局：坂口)

もちろんです。今はまだご提案いただいた状態なので、これをするかしないか、何がメリットで何が課題かとか、仕組みも何もわかっていない状態ですので、これから検討していく中で地域に求められているものかということも重要になってきますので、それも踏まえてあり方の検討調査、ちょっとまだ詳細なことはわからないんですけども、来年度に調査してまいりたいと考えております。

(増田会長)

ご指摘いただいたように、これをやっていくときに、地域の方々と連携してこの公園再整備を進めていこうという仕組みみたいなところも提案されているんですか。そこは提案されていないんですか。

(事務局：坂口)

地域の方との連携の仕組みというのは提案になかったのですが、それは我々が考える必要があるというふ

うに考えています。事業を進める仕組みはあったんですけど、どちらかというと事業者視点で、こんな企業とこんな企業が連携してこれするよというようなイメージだったので。

(増田会長)

23日に開園したっていう高槻市の公園は、市民とともに作り続ける公園というのを競合して、一方でボランティアの市民グループを育成するという話と一方で商売の、カフェ事業者を誘致して商売して、その利益の一部を公園再整備に還元してもらうという民活に。企業側の民活と地域の方々との連携という民活と両方が入って初めて成立するような、そんな理念があるんやろうと思うんですけどね。

(吉村委員)

僕個人的に、保育所の人にどういう風に使いたいとか意見を聞いてきて、それはいいですねということがあって、僕が公園部会として、今は保育所しか行ってないから、あと高齢の方とか色々地域の方の意見を聞くような、そういう活動もいるんじゃないかと思っているんで、そういう活動とあわせて考えていくと。そういうシステムを考えていかないといかんのじゃないかなと思うんですけど。

(事務局：坂口)

何か見せれる形っていうのは、まだこの提案概要をみても何かよくわからんものもありますので、ちょっと整理して図面におとしたものをもって意見交換したりとか、そんなことが必要なのかなと。

(増田会長)

ここに書かれていた、コミュニティスペースを含んだクラブハウスとか、近隣住民の方々の利便性の向上だとか、あるいは周辺地域の公園のネットワーク化とか言われているのは、必ず地域の方々との連携しないと成立しないようなことを言われているので、ちゃんとそこはきっちり仕組みとしてどう入れていくのかということを是非とも検討いただけたらいいんじゃないかなと。単なる経済性の仕組みだけではなくてですね。

他いかがでしょう。よろしいでしょうか。是非ともその辺今日ご意見いただいたものを組み込みながら展開していただければおもしろいと思うんですけど。

そうしたら、もう一つはURさんが金剛ニュータウンの位置づけが少し変化したんですかね。いかがなんでしょう、UR賃貸住宅ストック活用・再生ビジョンというので。

(鬼頭委員)

今回富田林市さんの方から、12月に弊社の方が全体的な考え方の話ということで、公表させていただいているものなんですけど、紹介してほしいというリクエストをいただいておりますので、今日こちらの冊子を持ってきました。これは金剛団地をどうしていこうというようなことではなくて、弊社が持っております賃貸住宅全体的なものを中長期的にどうしていくんだという大枠の考え方を整理したというものでございます。

裏面を見ていただくと文字がたくさん書いてあるんですけど、UR賃貸住宅は大体今、全国で約71万、2万戸くらいあるんですけど、その約7割ぐらいがこの4月で40年を超えてくるということで。この計画自体は中長期ということで、向こう15年くらいをみた上での計画ということなんですけども、

団地にお住まいの方も年々高齢化が進んでおる団地が多いんですけど、団地そのものもどんどん高年齢化してくるということで、この4月で40年ということですから、向こう15年までいくと55歳になるということなので、色々手を入れていかないとどんどん古くなってしまおうということ。今回全体でまず大きく3つに分類を分けたということで、それがこの上の方の四角に入っています、ストック活用、ストック再生、土地所有者等への譲渡・返還等ということで、ほとんどの団地がこのストック活用かストック再生に入るということで、今回4月で40年経過する団地というのは、全てこのストック再生という大きい枠として考えていきたいと思いますということで整理しました。最後のこの土地所有者等への譲渡・返還等というのは、主に大阪市内ですとか、京都市内ですとか、市街地にある団地が多いんですけど、土地自体をオーナーさんから借りて賃貸住宅をしているというような一棟建ての団地もいくつかありますので、こういったものは期限が終われば、団地そのものをお返しして団地自体をなくしていくというような整理をするもので数としては限られています。一番多くなりますストック再生というのにつきましては、その中でも大きく4つの手法で手を入れていきたいと思いますということで。その下にポツが4つありますけど、建て替え、集約、用途転換、改善。やっぱり基本的には古いものから順番に建て替えを行ったり、建て替えをせずに人口全体が減っていくということが目に見えているので、団地自体を少し狭めて一部集約化していく。余剰地のところに、より活用いただけるような新たな施設なんかを導入して、魅力を高めていこうというところでもあります。それとともに、先ほどご紹介しました医療福祉の拠点化ということもあわせてやっていこうということで、西日本37団地というようなご紹介をさせていただきましたが、平成でいくと45年までには全国ベースで250団地というのを一つの目標に掲げて、これから取り組んでいこうということでございます。

ですので、金剛団地はどうなんだとなりますと、金剛団地は昭和42年の管理開始ということで、50歳をちょっと超えているということで、分類的にはストック再生ということで将来的にはどういった方向で手を入れていこうか考えていくべき団地という整理をしたところでございます。では実際にどの手法でいつ頃やっていくのかという議論はまだできておりませんで、他の団地との状況も見合いながら長いスパンで考えていこうというところで、まだ具体的などこうというお話ではないんですけど、あくまで全体的な考え方ということで整理したものです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。何か質問ございますか。

(溝口委員)

一言だけ、当該団地としてですね、URさんの立場としての今のお話であったんですが、我々としては20年前に出された団地再生再建のプログラムが、20年間で5万戸削減した。それ以上にさらに団地を整理・統合していくという立場が今の国土交通省URの立場なんだと。そういう中に、居住者の生活に対する所有者の立場をどう考えているのかという視点が非常に欠けているというのが我々が批判しているところなんです。公的住宅の立場としてセーフティネット法に準じて、公的住宅の立場をきちり守ってほしい。公的住宅がどんどん減らされてなくなっている状況で、逆に住宅に困っている人がたくさんいる。そういう意味では公的住宅のURとして、そういう責任を果たしてほしいというのが我々の立場として意見を出しているところなんです。鬼頭さんが全体的な話だと、金剛団地に限った話ではないとおっしゃられたんで、それはそれとして、今すぐ金剛団地をどうこうという問題ではな

いという点だけは誤解されたくない。この再生ビジョンを進めるにあたって、必ず行政、UR、住民の三者との合意を得てやるということになっている訳ですから、そういう点でURさんの立場として全国的な展開をしていくというお話だと受け止めて、もちろんそういうお話だったんで。我々としては非常に不安な部分もありますけど、これに関してきちっと対応していくことになるのかなと思っております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。では、そういうところをきっちり踏まえながら展開してほしいという要望でございますので。

(鬼頭委員)

そうですね。おっしゃっていただいたように、ここにも書いてはありますが、当然どこの団地も事業をしていくとなるとお住まいの方が当然いらっしゃるわけなんで、そこについてはお住まいになられている方のご意見を当然のこととして伺いながら一緒に進めていくということにももちろんなると考えております。

(増田会長)

わかりました。ありがとうございます。

はい、それでは大分時間がオーバーしてしまいましたが、最後に今後の予定を簡潔に言っていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

3. その他

(事務局：坂口)

- ・今後の予定等説明。

(増田会長)

ありがとうございました。

それでは大幅に時間をオーバーしてしまいましたけれども、最後に事務局のご挨拶をいただいて終わりたいと思います。

(皆見委員)

- ・閉会あいさつ

以上